

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

統合レポート 2 ページに企業理念とともに GROUP VISION～10 年後に目指す姿～といった形で「お客様から長期的に信頼されるパートナー」という会社の未来像が示されている。そこには顧客との長期にわたる強固な関係性の構築によって顧客の希望を実現すること、多様な企業・サービスが集まるエコシステムの創成によりサービスの付加価値を向上させること、働き手の多様性を尊重して世界に通用する想像力を養うことを目標としていると書かれており、抽象的ではあるものの会社の目指す像が示されている。また経営戦略の新中期経営計画をはじめとして、社長インタビューなどの端々にも見受けられるように、NTT データは IT 業界で世界のトップ 5 の企業となることを Global 3rd Stage への到達と銘打ち、その到達の達成を目標としていることも理解できます。よって、この統合レポート 2022 には NTT データが目指す将来の姿がある程度細かく示されていると言える。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

事業内容の紹介ページに NTT データの強みや差別化要素として系列の NTT Ltd. との海外事業統合による高いグローバル性 (実際マーケットシェア 2% 以上の地域が統合後に 5 カ国から 23 カ国に拡大) やサービスオペレーション力、幅広い業界の顧客とのビジネスを通じた豊富なノウハウと高度な開発力、過去の実績や経験とそれに基づく強固な財務基盤の健全性などといったものが挙げられ、それによる顧客との長期的な揺るぎない関係性が大きな強みであると価値想像プロセスの説明のページなど諸所に示されている。また経営資源の段では具体的に他者平均よりも 7% 高い社員エンゲージメントや楽天みんな就での 2023 年卒新卒就職人気企業ランキングで 13 年連続一位であるという人材・組織力のレベルの高さや IT 業界での売上高ランキングが日本国内で 2 位、世界で 9 位というブランド力、国内の優れた外部委託先約 160 社と協働しているという強固な他者との連携、年間売上高 50 億円もしくは 5000 万ドル以上の顧客が 82 社という強固な顧客基盤なども示しており、現在の競争優位性が明示されていると言える。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

経営資源についての資料では、人材・組織力、技術、パートナー、顧客基盤、ブランド、財務の 6 つの資源について、それぞれに関連するサステナビリティの提示によって持続可能性のある経営を示している。また自社の自己変革の軌跡についての資料ではこれまでの事業の展開の変遷とともに売上高・営業利益の推移を示している。そこでは売上高・営業利益

がコロナ禍でも伸び続けており、また海外事業統合による今後の更なる向上見込みが示されていて今後も伸び続ける、持続可能性のある会社であるということを示唆していて、実績や経験なども優位性に寄与していたことを踏まえると、その実績がさらに伸びていくであろう今後もその優位性が持続されることが予測できる。他にも前述の就職人気ランキングの13年連続一位と言った要素もその人材確保の優位性に持続性があると捉えられるものなので、この統合レポートから優位性の持続性が十分理解できると言える。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

前述の高い社員エンゲージメントから周囲と連帯感を持って勤務できることが窺われること、日本国内外で業界トップクラスの売り上げを誇りレベルの高い事業が行われていること、また人財の資料にデジタルを活用した知見の共有や柔軟な業務形態、独自の育成プログラムを携えていることから自身の価値向上の達成に近づける会社と推察した。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

はじめの数ページに企業の理念やゴールと事業の特徴がまとまっていて数分で会社の概観が掴めるようになっていた点が良かったと感じた。前半の文言に少し抽象性の高さを感じて改善点のように思われたが、経営戦略のあたりで具体的な話が展開されているので特段問題はないと思った。